

景況レポート

(2月分・情報連絡員79名)

製造業・非製造業とも横ばいで推移

～木材・木製品製造業に若干明るい兆し～

【概況】2月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.4%(前月調査7.5%)、「悪化」が41.8%(同40.0%)で、業界全体のDI値は-30.4となり、前月調査と比較して2.1ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-21.9で前月調査(-25.0)と比較して3.1ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-36.2で前月調査(-37.5)と比較して1.3ポイント上回った。

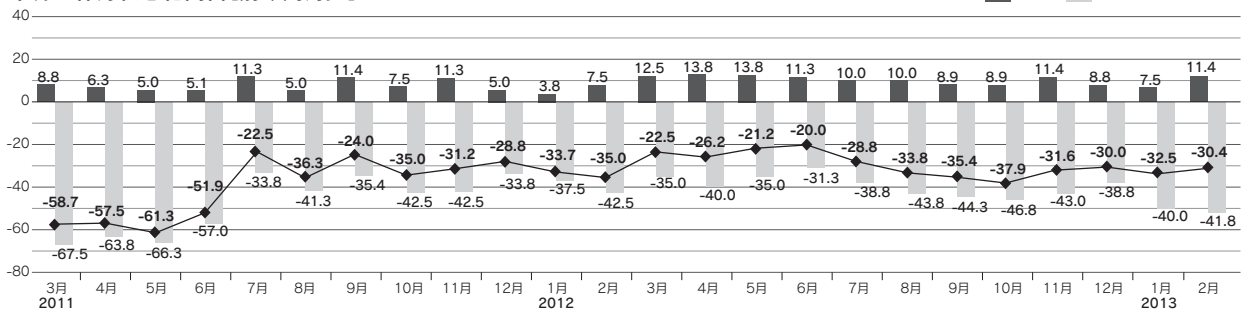
例年より気温が低く、降雪量が多い状態が続いたため、建設業や小売業をはじめとして多方面に悪影響が出た。一方で、木材・木製品製造業は本格的な需要期を迎える春以降への期待感が見られる。
(回答数：79名 回答率：98.8%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

【凡例】
 快晴 30以上
 曇れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △30未満 △10未満
 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

豆腐	原材料の大豆や燃料などが円安の影響により高値で推移しており、包装資材も値上げ要請が出されているが、製品価格には転嫁できない状況である。
一般製材	・ 土木資材の売上が増加傾向にあり、来月以降も受注の見通しがある。製材品は寒さのため生産を落としているが、価格の上昇を見越しての受注が増えており、本格的な需要期となる春以降に期待感がある。原木も製材品の価格上昇の気配から単価が上がっている。 ・ 流通在庫が少なく、合板のオーダーが多いメーカーでは1ヶ月以上も受注残を抱えるところも見られる。製品価格も上昇中で、明るい状況がしばらく続く見通しである。
生コン	2月の出荷数量は前年同月比100.1%。4月～2月累計では前年比108.4%。最終的に今年度は、740,000m ³ (前年度比107.4%)となる見込み。豪雪により、工事が中断している物件もあり、3月以降多少ではあるが前年同期に比べ、出荷増が期待される。
自動車販売	2月の新車販売台数は、登録自動車1,980台(前年同月比91.1%)、軽自動車が1,975台(同95.4%)で、合計3,955台(同93.2%)であった。
石油販売	ガソリンは1ℓあたり153円30銭で前月比6円の上昇、軽油1ℓあたり134円で前月比6円10銭の上昇、配達灯油は18ℓで1,871円と前月比102円の上昇となった。原油相場の上昇と円安進行で10週連続の値上げとなった。コスト転嫁が若干進み、3ヶ月ぶりに回復した。
商店街	家電小売は暖房器具や降雪によるテレビアンテナの倒壊等により前年並で推移。また、食料品等は昨年の「なかいち」オープン後、売上げが低下していたが、更に雪の影響もあり、低調に推移している。3月末には大手コンビニが進出予定であり、その影響が懸念される。(秋田市)
一般建築	大雪のため、土木・建築工事とも、例年の冬以上に現場の状況が悪化した。除雪で多少の改善は見込んだが、住宅地への除雪の指令が例年より少なかった。
電気工事	前半は官公庁関係の受注工事で平年並みの状況だったが、後半は受注案件が少なかった。民間の増改築による照明器具等の受注も少しはあったが、総じて暇な2月となった。今冬は豪雪に次ぐ豪雪で、作業効率が上がらなかった。
トラック	数量、収入とも前年同月に対し5%減少、主な品目別では、自動車部品5%減少、自主米10%減少、その他貨物が10%増加、燃料価格は前月比で+5円、前年同月比で+8円80銭で推移した。3月も大幅値上げの通知を受けている。